

114
A1219
1



長九月廿五日閣下幸ニ通行免狀一通ヲ給セラ

レ、相摸伊豆駿河遠江信濃甲斐及ヒ武藏ノ諸國
ヲ通行スルノ自由ヲ得テ、各方所在ノ山ト、空漠
タル原野トヲ試験シ、牧羊ノ便否ヲ實際目撃セ
ントスルノ宿志ヲ達セシメ、其試験シタル事跡
ヲ具狀スヘキト、敢テ允許ヲ忝ラス、何賜力之ニ
若カン、既ニ相伊駿ノ三國ヲ經過シ、租荒漠タル
山野ヲ試験セリ、始ニ相摸國木賀邨村宮城野
テ箱根七ヨリ取懸リタリ、木賀將ハ早川源ヲ箱
湯ノ箱根一

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大隈侯爵

ヨリ發シ小田原ノ右ニアリ、其尤宮城野村
ヲ距ル遠カラス、宮城野村ヨリ仙石ヲ距ル凡ソ
一里半、其間人家ナリ、滿地只植物ノ繁茂スルノ
ミ、就中日本ニテ茅ト唱ワルモノ最モ多シ、茅ハ
リードカナリイ名州小麦、花パンパス名州ノ三種ト
ハ、稍相近キモノナリ、三種ノ内パンパス草ハ、獨リ
南亞米利加ノ地方ニ生スルモノニテ、最モ之ト
相似タリ、扱茅ノ高サハ、二（ヒ）トヨリ乃至八（ヒ
ト）モアリ、八月中華サキ、九月中ニ至リ、其種落
ツ、種頗ル小ナリ、日本ハ各所ニテハ、茅ハ重ル

草柄ニテ、之ハ、ハ川取り、能ク枯レタルニ用ル
ハ、扱又宮城野村ト仙石村トノ間ニハ、殆ト一
里四方ノ善キ牧場アリ、其地タルヤ、平坦ハ處モ、
又小高キ處モアリ、不分明ニテ、畜産ハ為メニ圍
場等ヲ設ク、ルニ、充分ナル場所アリ、早川ノ右ノ
方ニテ、仙石村ヲ少シク離レ、仙石原ト唱ヘ、其地
平坦ニシテ、凡ソ八百坪坪ハ我カノ廣サアリ、
地味ハ黒クシテ、植物ノ生長ニ宜シ、西ハ川流界
ヲナシ、南ハ小丘アリテ、草木叢生シ、羊杯ノ遊行
上下スルニ適セリ、右ノ小丘モ北方ニ至リテ、草

ウゴハヒクハ
ウゴナラ
ラヒラヒクハ
ニフタイナラシ
ニ

水モ無ク、^ニ低卑ニシテ、^ニ坂路亦峻ナラズ、東ハ全
ク開キ、水賀村ノ南ニアル高原ノ處ニテ、^ニシハ二
里ノ間、屈曲高低一線ノ小路アリ、彼此相通ス、水
賀ノ南ナル高原ニ、草木ノ各種生長シ、地味頗ル
美廣カ、^ニ凡ソ羊里ノ平方アリ、東ハ森アリ、以テ塚
ラナセリ、夫ヨリ西仙石原ノ塚ニ在ル川流ノ處
マテ、相距ル凡ソ二里、北ハ早川ヨリ南ヲタゴヘ
ノ頂上マテ一里半、^ニ凡ソ二十里^ニ英法^ニ平方ナリノ場
所ヲ認メタリ、其場所多クハ牧羊スルニ利アリ、
又^ニ（ニノヒラ）ヨリ、^ニ芦ノ湯マテノ間ニアル小川ハ

ニカキヒクハ
フトニトケナ
ニ

格別高カラズ、荒蕪ノ景色モ無ク、草能ク繁カセ
リ、^ニ扱仙石ヨリ箱根湖水マテ、^ニ凡ソ一里半ノ間、一
戸ノ人家無ク、又耕作セシ土地モナシ、仙石村ノ
地形タルヤ、南北二山ノ間ニ在リ、其南ノ山脉ハ
（ウタゴヘ）ト唱ヘ、箱根山ノ續キニシテ、直ニ東海
道ノ北ニ當ル、北ノ方仙石谷ニ塚スル山脉ハ、^ニシ
ガタキト唱ヘ、相駁二國ノ界スル山脉ノ一部ト
ス、又仙石ノ真北ニ當ル、小山ノ腹側ハ、^ニ凡ソ羊里
ナリノ間、^ニ枝木並灌木等多ク生シ、夫レヨリ頂上
迄ハ、植物繁生シテ、頗ル夫觀ナリ、其山脉ハ、箱根

箱根

胡水ノ西北ニ至リテ、盡ル其處ニ二三百年前ノ
土切ト覺ホシキ、地中ノ掘割アリテ、路暗黒ニ
シテ且長シ、而シテ仙石村ヨリ湖水マテノ谷間
ハ、其廣サ凡ソ半里、地味美ナラス、就中湖水ニ濱
スル所ノ地質ハ、夏塊泥炭ノ如ク且孔飲ノモノ
多シ、保シ生長スル植物ハ、種類甚多シ、然レニ右
谷間中央ノ地面ハ、其質美ニシテ良草嘉卉滿面
ニ繁茂セリ、コノ同シ谷間ニ、駒ヶ嶽ノ麓トウバ
コノ真北ニ當ル所ノ地質ハ、絶美ニシテ滿地生
スル所ノ草ハ、茅ヲ始メ、種類亦多シ其廣サハ尤

右西側ノ小山等ヲ篋メ、凡ソ六里平方ノ坪数ア
レヘシ、又箱根湖ノ西北ニ嶮岨ナル一小山
十五丁程ノ小路アリ、此道ハ掘割ノ口ヨリ起リ、
西南ノ谷ニ出ル道沿ニ通ス、夫ヨリ湖東ノ西ニ
在ル小山ノ脈ニ沿ヒ、東南ノ方ニ於テ東海道ニ
通ス、里数凡ソ三里ニシテ、其廣サ平均一里半ノ
場所アリ、其西北ニ當リ、小山ノ腹側ニハ、芝艸ノ
生長スル處モアリテ、概シテ利益ヲ算スルニ凡
ソ二十英里^{英法}ヘシ平方モエレヘシ、且湖水近傍
ノ小山ハ、其阻ニシテ芝草ハナケレトモ、他ノ植

物繁茂セ、人全体此場所、往々ニ小高キ處アリ
 テ、谷間アリ、小山ノ間ニアリテ、又小キ谷ナ
 シ、或ハ(バシン)ヲナセリ、前條山脉ノ東南ニ際ス
 ル處ヨリ、豆州(池ノヤマ)マテ相距ル九ノ四里、絶
 テ人家ナク、箱根湖ヲ離ル、九ノ半里ニシテ、東
 海道ノ東南ニ當リ、廣漠タル山野アリ、諸草生植
 シ、牧羊最モヨシ、(イケノヤマ)ハ、風景モ佳ニ、牧羊
 スルニハ、廣濶ニシテ、其小山等モ、峻ナラス、且自
 然、避風トスヘキ、圓ナル小山等、数多アリ、又一小
 湖水アリ、湖水ハ西北流ント(ミシマ)ト交對スル

處ノ小山ト、東南(ワダヤマ)ノ間ニアリ、此處廣
 サハ、右湖水ヨリ望メハ、九ノ一里ノ平方アリ、此
 ヲヨリ熱海マテ、九ノ二里半、其間三分ノ二以上、
 方(ワダヤマ)並東北ト西南ニ面スル小山ニ、草木
 皆生長セリ、三島ニ際スル池ノ山ノ北ニアル、小
 岳等ヲ始メ、熱海ヨリ三島へ出ル道ノ東ニ在ル
 小山、其他熱海ヨリ北九半里ノ所ニアル、小山、及
 ビ前條ノ道路ト、他ノ山へ出ル小路トノ間、其坪
 数ハ、路ト四十平方里ノ場所アリ、箱根ヨリ熱
 海へ行ク途中、湯ヶ原村ノ真北ニ當リ、牧羊ニ宜

シキ地脈アリ、其辺ノ小山ハ、少シク峻ナル馬箱
 根ノ近傍ニ生長スル草ヨリモ、一層細美ナリ、又
 伊豆山村ノ上ニアル山野ハ、頗ル廣漠タル牧羊
 ノ場所アリ、其處及其近傍ノ小山ニハ、冬夏トモ
 ニ、三千頭ノ羊ヲ放テ牧養スヘシ、東ニ面シ、全ク
 西北ノ風ヲ防キ、實ニ最上ノ土地ニテ、冬分モ降
 雪杯頗ル稀ナルト、熱海ノ北凡ソ一里半ノ處ニ
 (アキノハラ)ト唱スル原アリ、廣サ殆ント一里半
 方程ナル善良ノ牧場ナリ、小山ハ樹木無ク、打テ
 開ケ、地面平カナラスル雖モ、中ニハ耕作スルニ

稍便ナル土地アリ、氣候ハ伊豆山ノ様ナリ、雪ハ
 十二月ノ初ニ降り始メ、二月ニ止ルト、其外伊豆
 ノ國ニテ、廣漠タル處モアルヘケレド、巡面ニ違
 ヤラス、全体豆州ハ、外國故人民モ各所ニ散居シ
 テナルヘシ、侏シ荒漠ノ土地ハ、能ク草ヲ生シ、羊
 大教ヲ牧スルニハ、上文ニ述ヘタル如ク、適當ハ
 場所多シ、駿州ニテハ富士山ノ西側ハ、凡テ試驗
 セリ、其次第左ノ如シ、
 未ニヤ、町ヨリ凡ソ三里ヲ隔テ、カニテムラノ
 少シク上ノ當リ、長サ三里幅一里ナリ、谷間ア

リ、此北界ヨリ足高山マテ凡ソ六里アリテ、且司
山脈ハ少クトモ平均一里羊ノ幅アリ、此辺ノ
地味ハ頗ル美ニシテ、美草地ヲ掩ヒ、野花燦々々
リ、右山脈ノ中央ニテ、凡半里平方ハ、覆盆子荆棘
等甚タ多シ、侏シ地味ハ肥沃ナリ、右等ノ荆棘ヲ
除クモ容易ナルヘシ、近傍ニテ最も好キ土地ハ、
ヤマムラノ東南凡ソ一里半ナリノ處ニテ、
シタキタイクボト唱ノレ場所ノ上ニアリ、表面
ハ高低上下平カララス、往々小丘アリ、自然ニ小
谷ヲナセリ、且草ハ短テ奇麗ニシテ、青草交リニ

種々ノ花咲キ、實ニ山脈ノ好風景ナリ、又富士ノ
山麓ニ際シ、大ナル森アリテ、一切日本ニテ名高
キ樹木繁茂シ、如何ナル建築ニ用ヒテモ、器材ニ
宜シカラス、既ニ予牧士小屋、及ヒ数多ク羊ヲ
畜スヘキ場所ノ図面ヲ取リ、是レ他日必此所
ヲ用ユルヲアルヘシ、又西ノ方富士足高山ノ山脈
ト、東ハ富士足高山ノ塚ニ接シ、凡ソ四里ノ處ニ荒
漠タル大野アリテ、其間道路ナシ、又足高山ノ東
ヨリ西北ニ面シ、富士ニ沿ヒシバシラ通シテ
流ル、細キ野川ヲ渡リ、其川ヲ一里半程過キ亦

牧羊ノ土地アリ、夫レヨリ東ニ當リ是高山ニ沿
ヒ、凡ソ二里ノ處ニハ、長サ七里幅平均一里羊ノ
土地アリ、又(ゴテン)ヨリ(ブリジ)村ニ通シタル路
ニ沿ヒ、(ミクリヤ)ノ内ニテ、(イタツマ)村ト云ノ處ニ
テ、廣キ牧場ヲ認メ、赤國杯ニテ殊ニ貴重スル一種
ノ草ヲモ發見セリ、

(キセ)川ノ左岸ニアリ、(コヤマ)村ニテ(ジガタキ)山
脈ノ北ニアリ、小山ハ、漸々ニ低下セリ、此山脉ハ
北方仙石ニ界スル所ノ(ゴテン)マテ一線路ノ通
スルアリ、凡テ坂路ニハ、芝草多ク其他ノ諸草モ

猶多シ、此辺ノ牧場ハ、上ニ記載シタルモノヨリ
モ、少シク廣カクヘシ、右兩所共相對シ、其界ハ(ゴ
テン)ノ狭キ谷ニテ區別アルノミ、
連上記載シタル土地ノ平方ヲ惣計スルニ、里數
間隔ノ長短等ハ、其土人ノ言、或ハ地圖等ニ一任
セリ、今熟考フルニ、連上ノ廣漠タル土地ハ、只(ゴ
テン)ヲ狭谷ニテ間斷アルノミニテ、凡テ一体ニ連
續セシヲ信用セリ、其證ニハ今又旅行ヲテサ
シニハ、先ツ最初ニ熱海ノ北半里程ノ隔タリニ
アル原野ヲ通り過キ、而シテ行ク一二里池ノ止

ニ至ル、夫レヨリ箱根湖ノ西ニ堺スル小山ノ南
テ、中皇ノ隔リアリ、又平地或ハ小山等ヲ經過
シ、三里ノ間北ニ行ケハ、湖水ノ北ニ達スヘシ、此
ニ至リ、早川ノ左岸ニ沿フテ、仙石谷ニ下レハ、經
過スル九一里羊ナリ、此處ニテ(ゴテシ)マデ通ス
ル線路ハ断ヘタリ、尤(ゴテ)近ハ、九三里ナリ、(ゴ
テシ)ノ谷間ヲ全ク通行スルトキハ、一里内外
里程アルヘシ、扱又(シバシリ)ノ前面ニ當リ、九ソ
五里ノ間モ、東ニ續キテ曠野アリ、夫ヨリ富士足
高ノ谷間ヲ通り過キ、西ニ過クレハ、足高ノ西方

ニ出テ、五里以上ノ里数モアリ、又夫ヨリ(カミテ
ノハラ)ノ北界迄ハ、少ナクトモ六里ノ里数アル
ヘシ、右ノ如ク熱海ヨリ旅行ヲ始メ(カミテムラ)
マテ巡行スレハ、凡ソ三十一里餘、即英法氣ハ
十里余ヤリ、其内(ゴテシ)ノ谷間、凡ソ二里程ノ場
所ヲ除キ、何方ニテモ人家ヲ見サルナリ、
扱連上試験セシ地方ニハ、凡ソ一百万餘頭ノ羊ヲ
牧養スヘキ見込ナリ、

地質 草水質ノ説

富士ノ山麓、凡ソ六里以内ノ谷地ハ、抑上古ニ當
 リテ、滿地皆火山ヨリ吹き出ツル燒石ニテ掩ハ
 レシモノナルヘシ、然レニ燒石中ハ諸原素盡ク
 熔解シテ後、植物自然ニ生長シ、又枯衰シテ、地味
 漸々ニ形ヲ変シ、遂ニ黒土ヲ掩フニ至リ、右ノ如
 ク教度ノ變遷ハ、世俗ニ所謂天神天ノ浮橋ニ立
 テ、海中ニ御剣ヲ探リ玉ヒ、其滴レヨリ、遂ニ此日
 本國ナル一美島ヲ現出セシ時代ヨリシテ、漸々
 改リテ、當今ニ至リテハ、豊饒富有ニシテ、滿島肥

沃ナエサハナシ、凡テ諸國ニテ火山石ノ多キ地
味ト同シク、山麓ノ地味モ頗ル肥沃ニシテ最上
ノ収納ヲナスベシ、此辺ノ地味ハ固黒土ナレハ
植物ノ種藝ニハ宜シキナリ、或レ場所ニテハ土
塊ノ凝結シテ泥炭ノ如ク、或ハ孔アリテ、以前ハ
沼池ニテモ有リシヤト覺シキ處モ了レ、氏現今
ハ追々植物枯衰シテ、其土地ト混和シ、穀類ヲ植
付ケハ頗ル生植ナスベキ地トナレリ、又承國杯
ノ水棉ヲ種テ適當ナレベシ、

艸

人家接近ノ場所ニテハ、何草ニテモ刈取ル草糞
ト唱ヘ用エルヲ見レハ、諸方草ハ品類ヲハ詳ラ
カニセザルベシ、茅草ハ夥多ナルモノニテ、幾度
モ刈取ル毎ニハ、速ニ生長シ、追々ト素性モ善ク
ナルモノナリ、凡水ノ一滴タリトモ、内ニハ幾午
ノ極微虫ヲ保ツカ如ク、土地モ亦自然ニ種物ノ
無量ヲ含有スルモノニシテ、最初ニ生スル艸ハ
皆粗野ナル雜草ノミ繁茂シテ、土地ヲ蔭ヒ善草
ハ下ニ蟄屈セリ、從シ造物者ノ妙用ニ依テ雜草

卷地百務局

ハ速ニ生長シ、其生長シタルモノヲハ、之レヲ刈
リ、或ハ之ヲ踏ミ付ケナドスルハ、最モ好午飯ニ
テ、進々ト善草芽立テ生長スルモノナリ、其證據
ニハ、試ニ路傍ニ生長シテ、人ノ為ニ刈リ取ラレ、
或ハ踏付ケラレタル草ヲ見ヨ、全ク新ナル草地
トナリ、漸々純良ナル美質ハモハ生長スルナリ、
此理ニ因テ、萬々注意セハ、其國々ニテ生長スル
所ノ草ノ原質ヲモ判シ得ルヘシ、
當地ニテ見當リタル新シキ種類ハ、スピールグ
ラス、年々生長スル草名、又ヒ奇麗ニシテ、葉ノ廣キ、牧草、或

ハ、狐尾草、莠等ノ種類ニテ、蠶豆ノ類モ、各所ニア
リ、尤テ日本國ニテ、荒漠タル土地ニハ、右等ノ種
類繁茂スル故、其國ハ美質花地味ノ膏腴ニシテ、
更ニ前古未聞ハ地質タルヲ頭ハ、サシ、為メニ、
牧羊ノ事業ヲ要スルニ在ルハ、且日本ノ諸島
ニテ生長スル草木ハ、一ヶ年ハ内、九ヶ月間ハ青
々トシテ枯衰ハ色ナク、既ニ當月五日海面上、九
四午(ヒート)ノ高處ニテ、美麗ナル野草ノ花ヲ得
ルコトアリ、然レニ西洋諸洲ニテ、昨今ハ、時節ニハ
最早、多少ノ降雪アルカ、或ハ陰霧杯ニテ、野草モ

春也
百務局

蓋シ、萎枯セリ、當國ニテハ、一ヶ年中四分ハ、一丈
 ケ、乾食物、並小屋等ハ用意ヲナスノモニテ、是レ
 ハ、シ然レニ、歐米兩洲ハ諸方ニテ、ハ、羊ヶ年間ハ
 小屋ヲ設ケ、牧養セサレテ得サレナリ、日本南海
 ノ諸方ニテハ、牧養ノ場所ハ冬分タリトモ、草木
 ハ生長サヘ下レハ、牛羊ヲ外ヘ放ケ、決シテ小
 屋等ノ設ケナクハ、トモ妨ケ無ラント、更ニ疑ヒラ
 容ヘス、扱又茲ニ一談話アリ、附載セン、先頃沼津
 ノ近傍ニテ、田路ヲ通り過シトキ、偶々二人ノ農
 夫アリテ、稲ヲ刈リナガラ、路上ヘ一種ノ草ヲ擲

ゲシアリ、能々注意セシニ、右ノ草ヲハ、其種ヲ蔭
 キ枯レタル上ニテ刈リ取り、以テ牛羊ノ食ニ供
 セハ、歐米諸洲ニテ養植ナシタル草ヨリモ遙カ
 ニ上等ナルヘシト、不図思念シ、其草ノ仔細ヲ問
 ヒシニ二人ノ農夫共、只其稗タル名ノモヲ知リ
 テ、其外何タル仔細ヲ語ラス、依テ一層推問セシ
 所、遂ニ「ヲトヤ」ノ角太ト云フ人、右ノ稗ヲ用ヒ余
 カ見ノ如ク、貴重ナル植物ノ由ヲ確定セシト聞
 キタリ、右稗ノ種ハ、外種ヨリ、其穀ハ多キト十倍
 セリ、其葉或ハ莖ハ、柔ヲカニシテ、且汁多シ、如シ

日本モ牧羊ノ國トナリナリハ、稗ハ牛羊馬ノ為メ
ニ冬分ノ重ナル食物トナリヌベシ

日本ニテ羊ノ生活、并蓄息如何ノ説

是迄日本ニテ蓄養スル羊ハ、皆外國ヨリ輸入ノ
モノニ係リ、殆ント斃レ死セリルモノ少ナキカ
故ニ決シテ日本ニテハ生活モセズ、又蓄息モセ
ザルベシトハ普通ハ説ナレド、余ハ敢テ隨ハス
更ニ一説アリ、此度駿州ヲ旅行セシ時初テ羊ノ
死ニ就ク原由ヲ穿鑿セリ、右ハ羊ノ食スル草ニ
毒アリ、ハニ非ス、又草ヲ培養スルハ道欵ケタハニ
モ、非ス、只羊ヲ養フノ方法如何ニ在ルハニ、全体
牧養ノ方法頗ル善ナラス、遂ニ病ヲ醸成スルニ

至レ、右ノ病ニ罹レトモ、其初メ速ニ治療ヲ施セ
ハ、死ヲ免レ、一容易ナルヘシ、

曩日沼津ノ近傍ニテ、百四十頭ノ羊ヲ養フ一人
アリ、然レニ百四十頭ノ内僅六頭ヲ餘スノ外ハ、
皆病ヲ受ケ、且治療モ盡サスシテ盡ク死セリト
聞キ、其残り六頭ノ有様ハ、如何アラント行テ見
レニ、何レモ病ヲ受ケ殆ント斃レ、ノ勢ヒナル
故ニ、早ク手當ラ施コスヘシト、忠告セシニ依リ、
漸ク三頭ハ取り留メタリ、依テ羊ヲ養ヒ置キシ
場所ヲ吟味セシニ、敢テ毒アル草杯少シヲ着出

サバリシ、毒アル草ヲハ、僅カニテモ食スルト
キハ、直ニ死ヲ来タシ、兩三日ハ、永ク生存スル
ハハ、決シテナシ、佯シ同所ニテハ、数ヶ月間モ生
存セル羊モアリシナレハ、食物中少シモ毒草ハ
ナキハ、ハ確證アリ、余カ曩日(ヲトヤ)ノ角太氏ヲ
訪ヒシ兩三日、前同氏ハ、静岡表ヨリ羊九頭ヲ買
求メシガ、其羊ハ、静岡ニテ既ニ三ヶ月程モ飼ヒ
置キシト、右ノ内牝羊一頭アリテ、二ヶ月程ノ子
羊ヲ連レタルモ、アリ、子羊モ能ク生長セリ、日
本ニ於テ種々ノ草アリテ、余輩ノ曾テ見馴レサ

植物ノ種類若干アリ、就テハ右等ノ草、羊ハ食
 ハテ可ナ、ハヤ否ヲ臆ト、辨知シカクシ、然ルニラ
 トヤノ角太氏ノ處ニテ好機會ヲ得、右等ノ諸草
 ラ寄セ集メシニ、實ニ珍貴ノ種類多カリシ、之ハ
 ラ以テ羊ニ食ハシムルニ、何ハモ能ク食ヒテ満
 足ノ体ニ見ヘケリ、今日本ノ山野ニテ、牛馬ヲ養
 フニ、自然生スル處ノ草ヲ刈集メ、之ヲ括ラシ
 メ、以テ食ハシムルニ、牛馬ノ有様頗ル美ナリ、今
 右ニ掲クルモノハ、牛羊馬ノ食フベキ諸草ノ割
 合ナリ、

馬ノ食フ草ノ種類 其数二十

牛ノ食フモノ 同 三十

羊ノ食フモノ 同 六十

是レニ依テ觀レハ、羊ハ牛馬ハ能ク蓄息セサル
 所ニテ、牧養スル共、能ク生活蓄息スヘキ必然ナ
 リ、然ルニ日本ニテハ、亦タ牧羊ノ經驗モナク、牧
 養ノ方法モ立タス、前條ニモ記載セシ如ク、余カ
 巡回セシ富士ノ山麓等へ牧養シテ、其好ム食物
 ラモ食ハシメスシテ、汚穢ナル園へ閉ケ置キ、食
 物ハ配與正シカラス、且其食物一種ハニ、テ上

品ノモノナラズ、斯クシテ如何ソ、生活スヘケン
ヤ、就テハ羊ノ斃死スルハ、固リ驚クヘキトナラ
サルモ、如此惡シキ養ヒラ受ケナガラ、矢張命救
ハ、時日ヲ活キ延ブ、ルトコロ、實ニ恠ムヘキトナ
リ、是迄日本へ輸入スル羊ハ、通例支那産ノ種類
ニテ、世界中最下等ノモノハニテ、其性强壯ナラス、
其毛ノ目方モ、一(ポント)乃至一(ポント)羊ニ過キ
ス、猶其上ニモ毛質頗ル劣レリ、然ルニ他ノ種類
ノ毛ハ、其目方モ六(ポント)乃至十(ポント)マテノ
モノ多クアリ、右ノ類ヲ方今日本ニテ牧養セハ、

能ク蓄息スベシ、斯クテ最モ適當ナル羊ノ種ヲ
擇ミ、並其他ノ事ニ就キ、篤ト注意スルト最モ肝
要タリ、第一時候ノ寒暖地味ノ良否、並牧草ノ善
惡ヲ能ク計ルベシ、或種類ハ汁多キ艸ヲ嗜ミ、或
モノハ然ラス、又或モノハ低キ土地ニテ蓄息シ、
或ハ高キ地面ニテ、食物少ナクシテ生活セルモ
ノアリ、各種其趣ヲ異ニス、ケメールコト羊ノ一
種ハ、最貴重スヘキモノニテ、日本ニテハ何方ニ
テ、能ク生殖スヘキナリ、

官地ノ事

日本國ノ官地ハ耕作シタル田地ノ坪数ト比較
スルモ、殊ニ廣大ナルモノナリ、扱牛肉羊肉及
物獸皮滑皮若獸脂等ノ如キハ、畢竟皆州ヨリ生
スルモノナレハ、今(グラス)草ト云フ辞ハ、連上羊
牛肉其他ハ異名ニ用ユルナリ、當今日本ニテ輸
入スル毛製ノ品物、若綿交リノ獸毛等、一ヶ年ハ
高五百萬弗以上ニ至ルト、横濱税関ノ一官員タ
ル(ウヒル)セインベ(氏)ノ談ナリ、今前条ニ述ヘ
タル、廣漠タル官地ノ草ヲ收納シ、以テ牧養ノ道
ニ利用セハ、牛羊ノ價一億五千萬弗以上ニ至ル

ヘシ、右ノ積リ高ハ西洋諸國ノ統計表ヲ以テ比
較セハ、自カラ明瞭タルベシ、總テ牧羊ハ勿論、牧
養スル土地ヘモ、相當ノ税金ヲ課シ、羊毛ヲハ製
シテ及物トナサハ、日本全國會計ハ不足ハ補ハ
ハミナラス、人々亦一生ノ間新ニ生産ノ基ヲ立
ツ、ヘシ、凡ソ一國中ニテ新ニ方法ヲ設ケ、夫レカ
為メ全國ノ歳入増加スルモ、其割合ニテ一般
ノ貢税ヲ減スルモノナリ、今日本ニテ政府ノ總
歳入高允ソ五分ノ四ハ、皆窮民ヨリ納ムルナリ、
依テ國家ノ富強ヲ致ス、新法ヲ發明スルモ、
依テ國家ノ富強ヲ致ス、新法ヲ發明スルモ、

夫レニ貢税ヲ課シ、務テ窮民ノ貢賦ヲ輕クスベシ、右ハ各國政府ニテ最モ注意スル所ニテ、國家ノ一大要務ナリ、万一此要務ヲ缺キ、重ク窮民ニ課スルキハ、遂ニ國家ノ富强ヲ致タス能ハサルハ論ナリ、全國ノ騷乱ヲ生スヘシ、方今日本ニテ交易品トナリタル、茶、花生絲ノ外耕作上ノ產物ヲ以テ、百年前ハ產物ト比較スルニ格別ニ増加セルトハ信シ難キナリ、若シ耕作道開ケサレハ、隨テ國ノ富强ハ増加スルモノニ非ス、然ラハ到底畜產ノ道ヲ開カズシハ、日本國ニテ廣漠タル

豊饒ハ土地モ、永世廢棄トナリ、自然耕作モ過ラズ、大ニ進歩ノ害ヲナスヘシ、何故ニ西洋諸國ノ人民ハ、東洋諸國ノ人民ヨリ、一層富有ニシテ、且権カアルカノ理ヲ推考スルニ、全ク勉強ノ事業ニヨルノモ、畢竟日本ニテハ、徒ニ無益ノ勞ヲ費ス、ト多クテ成功アレトナシ、今新ニ産業ノ道ヲ開クニ非サレハ、風俗依然トシテ改新スルト能ハス、風俗ヲ改新スルニハ、牧羊ヨリ善ナルハ無シ、今茲ニ一百万頭ノ羊ヲ牧セハ、其使傭スル人口九四千員ヲ要スヘシ、然レ上猶製毛ノ機車等ヲ

取リ設ケンニ、新ニ産業ノ道ヲ開クヘシ、是即チ
一益ヲ起シテ、二益ヲ生スル所以ナリ、於是予窮
民ノ有様モ亦自然ニ殷富ニ至リ、各其所ヲ得ル
ニ至ラン、窮民其所ヲ得レハ、萬事隨テ改正シ、遂
ニ全國ノ富强ヲ増加スルニ至ルヘシ、今夫レ日
本ニテ價ノ廉ナルハ、人カヨリ廉ナルハナシ、我
今荷車ヲ運シ、人命ヲ損フヘキ人カ車ヲ挽キ、或
ハ重キヲ負ヒ遠キニ行クモノニ代ハリ、為ノニ
計ル所アラントス、願クハ才アリ智アリ報國ノ
志ヲ懷キ、兼テ愛民ノ心ヲ存スル在上ノ君子、日

本國不測ノ財木ヲ頭サハ、帝ニ國ヲシテ富强繁
榮ナラシムルノミナラス、其入亦以テ衆庶ノ思
人タルヘシ、而メ切名曄耀子々孫々永世不朽ニ
傳ハリ、其純實神聖ナル豈ニ彼ハ軍ニ臨ニ戰功
ヲ立ツルノ士ト比スルニ違アラシヤ、誠惶頓首
具狀
千八百七十三年 日本東京ニテ
十一月廿四日 ジー、ドブレエー、ジョンズ
外務卿閣下

外務卿閣下

余ハ去第十一月廿四日相模伊豆駿河辺洪荒未
 闢ノ土地ニ付一報知ヲ閣下ニ呈シ、近頃又道ヲ
 甲州街道ハ王子ニ取り、甲斐ノ地方山梨縣下甲
 府迄遊歴シタリ、此街道ハ山嶽多クシテ、小佛峠
 カ、ゴ峠ノ如キハ地脊極テ高ク、又其低キ
 者アリ、若シ此等ノ地脊ヲ省キ、地勢ヲ論スル氏
 ハ、左右ニ山脈平行シテ聯リ、街道其間ヲ貫キ、東小
 佛峠ヨリ西勝沼ニ至テ止ム、勝沼ハ甲州清秀ナ

ル山谷ノ口ニアル市邑ナリ、此兩地間ノ距離ハ
察スルニ十八里許ナルヘシ、兩側ハ皆丘陵
ニシテ一種茅ト称ヘル草及ヒ短小ナル樅樹ノ類、
悉ク繁茂セリ、其山嶽ハ或ハ頂上ニ平原アリテ、
廣狭一ナラス、此等ノ山脈ハ、概子峻峭峭壁ニシ
テ、牧羊ハ切ラ奏セスト雖モ、野牛ヲ牧養スルニ
ハ、的切ナルヘシ、

希クハ閣下野牛牧養ノ注意有シトテ、日本處々
正多キノ地方、牧羊ニ不便ト雖モ、爰ニアングラ
種ト称ヘル野牛ヲ牧養スルハ、切益必ス大ナ

ルヘシ、日本國中山嶽之陵寸地モ境揃不毛ナリ、
皆草木稠茂セルモノナリ、今之ニ羊ヲ放テ、或ハ
野牛ヲ牧スルハ、彼ノ艸木ノ空シク腐敗ニ就
ク者モ、轉シテ莫大利益ヲ起スニ至ルヘシ、純粹
ノアングラナル者、野牛ノ中ニモ最モ貴重ノ品
ニシテ、所謂エゲアミノルノ中央ニアル一地方
アングラニ産セル野牛ナリ、此野牛ハ大サ平常
ノ羊ニ齊シク、耳垂レテ長ク、脚短ク、軀肥大ナリ、
毛長クシテ白色恰モ生糸如シ、捲縮シテ長ク垂
ル、古史ニ就テ考フルニ、往昔エゲアミノルノ人

民此毛ヲ以テ幕ヲ織リ、及ヒ幕ノ紐ヲ作リ、或ハ
行人ノ懸崖絶壁ヲ降ルニ繩ヲ用ユル者、皆此毛
ヲ以テ製スル所ナリ、輓近此毛ヲ以テ製スル布極
テ多ク、所謂高賣ニモヘル所ナレモ、即
テ是レナリ、又此モヘル製諸種ノ外、別ニ一布
アリ、其質美ニシテ且ツ輕シ、能ク水氣ヲ防クヘ
シ、此野牛ノ利益タレマ、是々羊ニ勝ルト雖モ、日
本ニ於テ後來ノ榮富ヲ謀ル、此二種一モ欠クヘ
カラス、抑牧羊ハ毛布輸入ヲ外國ニ仰カスシテ、
人民ノ輕暖ヲ謀リ、農業ヲ利シ、農夫ヲ富ス、又野

牛ハ險阻高燥人家隔絶ノ地方、牧羊ノ行ハ難
キ處ニ利アリ、故ニ此二種ハ土地ノ無用ヲ翻シ
テ、有用ニ改シ、山嶽峰嶺ノ頂モ終ニ世間ハ幸福
ヲ致スニ及フナリ

先年佛國政府此アングラ野牛ノ尤モ貴重スヘ
キニ注意シ、之ヲ佛國ニ輸入シ、繁殖ノ業ヲ勉メ
シニ、其經費三十五万弗ニ及ヘリ、然レモ此舉終
ニ成功ヲ致サス、今日ハ一小地方ニ僅々放養ス
ル人ニ、是レ佛國ハ氣候ノ適セス、風土ノ應セサ
ル所アルニ由ルナリ、然レモ此東方ニテハ氣候

風土其生育ニ必要タルモノ一モ備ハラサルナシ、

此野牛ノ利益タルヤ、羊ニ勝ルモノ多シ、其繁殖スル一羊ヨリモ速ニシテ、一年間ニ児ヲ産スル一三次、生命ノ長キ一羊ニ三分一ヲ加フ、毛又多量ニシテ價頗ル貴シ、其性艸ヨリモ樗ノ如キタニシテ、含メル樹木ヲ好ムモノニシテ、駿河スバシリノ辺繁茂セルフイル、及ヒバルサムノ類、最モ好ム所ナリ

野牛ノ性一處ニ閉塞スルヲ好マス、高山ノ頂上

ニモ奔走シ、歳寒ヲモ忍ベス、他畜類ノ所ナリ、日本ニテ野牛ヲ牧スルニハ、歳寒ノ防禦法ハ用ユルニ及ハス、其肉ニ至テハ、吾人之テ羊肉ニ勝ルトスル者多シ、又孩児ノ母ヲセシ、或ハ乳汁不足等ノ節、此野牛乳ヲ用ヒテ、生育殊ニ宜シ、
甲府ノ谷ハ長サ九ソ八里、幅九ソ二里ナリ、山嶽四塞、皆草木稠茂ニテ、其種一ナラス、此等ノ山嶽ヲ驗査スルニハ、時節甚ク後レ、降雪ノ天氣トナリ、駿河嶽地藏嶽ノ数峯ハ、早ク既ニ雪ヲ帯ヒタ

リ、
此一遊歴ニハ予三ツハ目的ヲ期セリ、甲斐ノ山
國地質ヲ研究スル一ナリ、不二山東北面、當ル
地方ヲ検査スルニナリ、又夏秋ノ間草色ノ青
タリシモ、其州歳寒霜雪ニ痛ムト否トヲ見ル三
ナリ、故ニ前度徑過ノ地方、今又回歴シタリ、
不二山東北ノ面、並ニ中山嶽ノ四方曠漠ノ地脊
アリ、草性ハ予カ前度報知ニ記載セル者ト全シ
此地方並ニ近傍肥沃ノ丘陵ヲ量ルニ、其地面英ノ
二十里方以上ナリ、然レ近頃ノ破裂ノ爲メ、土壤

26

ノ深淺肥瘠ニ至テハ、正南面ニ比スレハ劣ルヘ
シ、硝火石猶ホタ全ク分解セスト雖モ、草木ハ繁
茂セサル處ナシ、

此地方ハ最モ牧羊ニ便ナル者ニシテ、其方法宜
シキヲ得ルヤハ、頗ル許多ノ羣教ヲ産スルニ至
ルヘシ、

今吾界各國ニアル牧羊ノ頭数ヲ尤ニ計算ス、固
下注目アラシムラ願ハ

佛朗私

三千萬頭

アルゲリア

千萬頭

各地事務局

魯西亞

五千四百萬頭

亞米利加聯邦

三千二百萬頭

英國

二千六百三十七萬六千頭

瓊

二千七百萬頭

リルウエソン

二千四百萬頭

土耳其

三千二百萬頭

オーストラリア

三千五百萬頭

好望角

千二百萬頭

ニユージーランド

千五百萬頭

イリウエトトル

三千萬頭

27

西班牙

二千萬頭

意大利

八百五十萬頭

伯爾義

三百萬頭

荷蘭

百五十萬頭

葡萄牙

二百四十一萬七千頭

總計三億六千三百七十九萬三千頭ナリ

以上各國他牛馬家畜ノ数ハ之ニ準スヘシ、牛馬

ニ至テハ、日本ニアル所ナレハ、別ニ辨論セスト

雖モ、爰ニ須要ナレハ、今若干ノ壯畜ヲ輸入シテ

其種ヲ移シ、上品ニ進ムレキハ、日常有用ノ牛、及

畜地事務局

運送兵役ニ用エル馬、貴重ノ數種速ニ産スル
 ニ至ルヘシ、今其種ヲ移スノ法、日本牝牛一
 群、外國産牝牛ヲ之ニ合スルナリ、又日本牝馬一
 群、外國牝馬ヲ合スルナリ、牝種何レモ高價
 品ニハ及バズ、○今此種取ニ適當セル種類ヲ擇
 ムノ方法ハ、頗ル經驗ト知識トヲ要スル所ニシ
 ヲ、若シ其擇ミタル牝畜、牝畜ニ比シテ大小甚々
 不當アルトキハ、其産スル所ノ體、體容正シカラ
 サルヘシ、牝畜其牝畜ノ大小ニ相應シテ、牝畜ニ
 欠乏アル所ヲ補フヘシ、牝畜ノ體ニ感應スルコ

21

ト、牝畜ヨリモ其力大ナリ、故ニ種ヲ移スハ速ニ
 品位ヲ良好ニ進ムルナリ
 予遊歴セル洪荒未闢ノ地方ヲ検査スルニモ、何
 等ノ牝畜最モ種取ニ適當セルカラ告知センカ
 為メ、專ラ牛馬ノ種類ニ注意シタリ、日本ニ於テ
 牛ニ二種アリ、其大ナル種類ハ京都近傍ニ多ク
 有之、其小ナルハ開拓使農場ニ見ル者、或ハ横濱
 屠牛ノ類コレナリ、此二種ニ取ル所ハ種牛固ヨ
 リ分別アルヘシ、其大ナル者ニハ、ドルハム種ヲ
 合セ、其小ナル者ニハ、デウラン種ヲ合スヘシ、馬

モ亦各地方ニ隨ヒ大小体容一ナラス其種取ノ
方亦必ラス分別アルナリ

牧羊計算表ニ就テ考フレハ人烟最モ稠密ノ國
牧羊最モ盛ニナリ伯爾義ハ其版圖僅ニ一萬三
千里方ニシテ其戸口每方々里ニ四百五十口ノ比
例ナリ然ルニ牧羊ノ数ハ三百萬ニ居ル

牧羊ハ此帝國ニ於テ第一ノ急務タリ蓋シ日本
農民千四百萬負、概子一二ノ頭数ヲ買ヒ得ルハ
シ半馬ハ農務及ヒ運送ニ用ユルノ外ハ、牧畜ニ
至テハ、農民ハカニ及バサハ所ナリ加之千馬ハ

29

其生産ノ進ニ神速ナルヲモナク、利益モ亦小ナ
リ、牧羊ハ食物ト衣服トラ給シ、牧畜常ニ切益多
シ、

伯爾義ハ歐羅巴州中人烟最モ稠密ニシテ、不動
産ノ價極テ貴キ國ノ一トス、然レ牧畜ノ種類ニ
至テハ、一モ潤澤セサルコトナシ、

牧畜ノ費用ハ、地價ト工作費ノ輕重ニ係ル者
シテ、日本ニテハ、處々洪荒未開ノ地少カシサレ
ハ、牧畜ノ業豈ニ切益ナシトセンヤ、

今日本ニ於テ重大ノ事業ト稱スル者ハ、廟堂有

司ニアリ、サレハ衆民ニ於テハ之ヲ擔當セサル
ノ勢ナリ、

又一説ニハ全ク私有ニ関セル事業ハ、皆衆民ノ
興ス所ナリト、人民果シテ之ヲ勤ムル氏ハ、此理
至當ナリ、

人民大ニ鼓舞セラレテ、開國ノ事業ニ就キ、以テ
リリスラ作ルニ至ル、其方法固カラサル氏ハ、終
始日本ノ農民ヲシテ、牧畜ノ業ヲ起サシメス、農
務ハ利益ヲ、障害スルナリ、
或人ノ説ニ、日本後來ノ鴻益ヲ期スルニハ、國中

8

鉄道ノ大成ヲ起スニアリト、コレ然ラス、予諸國
經歷シタリシニ、日本ノ如キ鉄道大成ノ事業急
ナラサルレド、復他國ニナキ所ナリ、物産豊饒ノ山
谷ハ、概子宮道或ハ海港ノ近傍ニアリ、而シテ今
國中鉄道ヲ縱横ストモ、物産海上ノ運漕便利ナ
ル、即チ今日見ル所ナレハ、必然國益ヲ致ス者
ハ、一二線路ノ短キモノヲ起スニアリ、此等ノ患
告ハ、今般ノ遊歴ニ始テ發明スル所ニシテ、東京
ヨリ八王子ニ至ルノ途中、莫大ノ物貨皆道上ニ
テ之ヲ運送シ、甲州豊饒有余ノ物産ハ、皆此道中

各地事務局

二テ當府ニ輸スルヲ目撃セリ、予察スルニ此兩
 地間ニ鐵道ヲ布クキハ、其途中ノ地方モ利益ヲ
 受ル、甲州ニ齊シ、此ノ如キ線道ノ短キ者ハ、日
 本ノ銀主ニテ之ヲ起ス、頗ル容易ナリ、斯ク漸
 ラ以テ行ノキハ、遂ニハ鐵道大成ニモ至ルヘ
 シ、
 予山梨縣令並ニ次官二名ノ懇篤信切ヲ蒙リシ
 ハ、閣下ヲ經テ敬謝ヲ述ブ、官負庶人ヨリモ懇信
 ノ待遇ヲ受ケタリ、予カ遊歴ノ目的ヲ農民等ニ
 語りシニ、彼等ニ於テモ裨益ヲ受ケシ、外務

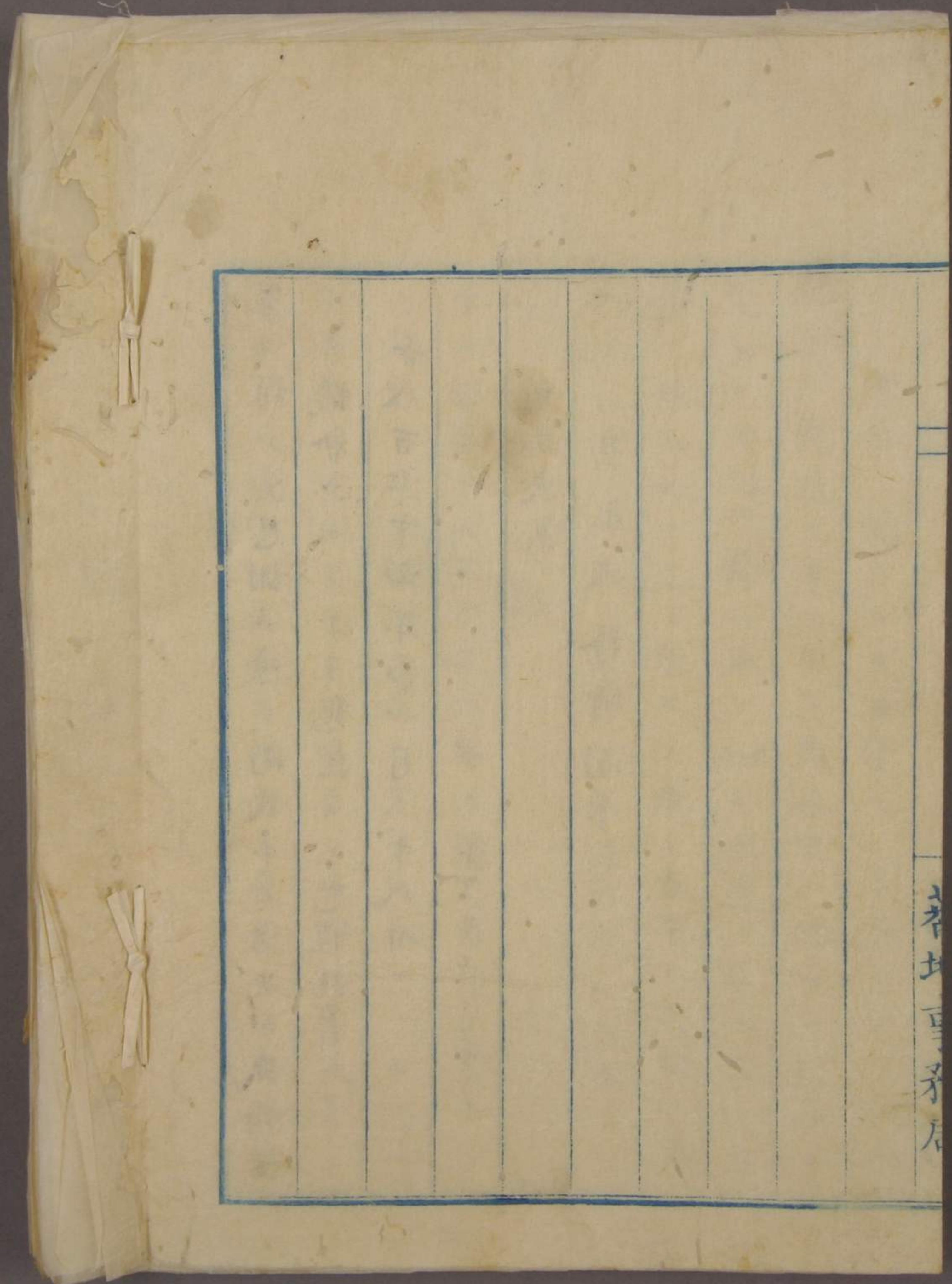
省ニ對シテ、恩謝ヲ陳シ、尚牧羊ノ得失ヲ識得ス
 ルノ機會アラシ、ラ懇望セ、必恐惶謹言

千八百七十四年第一月二十八日

デイドブリユシユトン

日本東京

日本外務卿閣下



卷之三